

あゆみ通信

VOL. 119

あゆみの会(真宗大谷
派大阪教区第2組同朋
の会推進連絡協議会)
会長 浪花 博
広報 本持 喜康

第2組合同報恩講で会 しょう



「我が歳きわまりて、安養浄土に還帰(げんき)す」といとも、和歌の浦曲(わ)の片男浪の、寄せかけ寄せかけ帰らんに同じ。一人居て喜ばば二人と思ふべし、二人居て喜ばば三人と思ふべし、その一人は親鸞なり」

(「御臨末の御書」)

親鸞聖人が命終ったあと、書き残されていたと伝えられる文章です。おそらく聖人が書き記したのではなく、後のある時期に聖人の遺言として語られるようになり、書きつけられ伝承された言葉であろう推測されるものです。いわば聖人の教えによって念仏者となった人たちの中に生き続ける親鸞聖人、常に念仏する人と共にありたいと願い続けてくれた親鸞聖人、このような聖人の姿を実感を込めて誠に感銘深く語った言葉です。いわば念仏者とともに永遠に生き続ける親鸞聖人の「法身」(ほっしん)を表わす、印象深い言葉と理解される一文です。これらの言葉を通してくっきりと浮かんでくる人間像、そ

れこそが自分を「愚禿釈親鸞」と名乗った一人の念仏する仏者の面影です。私たちが「親鸞」という名を聞いた時、自然に胸に浮かんでくる「あの人」の姿です。

(寺川俊昭「親鸞讃歌」2011年「真宗の生活」から引用)

第2組報恩講案内

各寺院でも報恩講は勤められますが、第2組では合同報恩講を僧俗一緒に勤修致します。併せて同朋総会も開催されます。是非、ご参加下さい。ご参加希望の方は、11/5までにお手次のお寺へ申込み下さい。

日時 2018年11月14日(水)
午後5時30分～8時30分

会場 即應寺(阿倍野区阪南町)

内容 勤行、法話

講題 「父母の孝養」

講師 澤田 見先生

(12組 清澤寺)

参加費 2000円(お斎料)

申込みは、11/5までにお寺へ。

真宗本廟で報恩講 11/21(水)～28(水)

今年も真宗本廟において、報恩講が厳修されます。

お念仏の教えに会い、生きる依り処をいただいた御恩に感謝し、親鸞聖人のご遺徳が偲ばれます。

全国から多くの御門徒さんが参集されます。

ご都合がつかますれば、会員

の皆様もご友人をお誘いいただいて、是非ご参拝くださいますようお願いいたします。

詳しくは、お手次のお寺へお尋ねください。

総会は12月16日(日) 1時30分から行圓寺です。ご参加をお待ちしております。

誓願不思議

「歎異抄」第1章にある言葉。

人生を振り返れば、今の自分があることに、本当に不思議だと思う。安保世代の在学中は、マルクス経済学を学び、ドイツの哲学者マルクスがその著書で「宗教は阿片だ」と言ったのを金科玉条のごとく受け取っていた。だから当時は家の仏事には義理と厄介で参加していた。

今、お内佛の前に座りお勤める姿に、嫁は今でも信じられないと言う。自身でも驚いている。

まさに誓願不思議である。

いただいた南無阿弥陀仏を、心の奥底の法蔵菩薩と共に、大切にお念仏の道を歩みたい。

ちなみにマルクスが「宗教は阿片」と言うのは、当時のドイツは政治弾圧が厳しく、国民は困窮。宗教に縋るしかなく、それに対して左派系の先輩が宗教批判をしたのを。マルクスは逆に「宗教は悲惨な現実の裏返し。宗教批判をするのではなくて、現実を変えないとダメ」と宗教批判をして自己満足する先輩たちを批判したと言われています。念のため。合掌。(本)

自利利他円満

第2組聞法会報告



2018年10月20日(土) 午後2時から、本年最後の第2組聞法会が天王寺区光圓寺をお借りして開催されたが、報恩講の季節でもあるからか、住職、門徒・推進員16名の参加であった。海老海恵幸組長(了安寺)の開会で真宗宗歌斉唱、勤行。法話の講師は三好泰紹先生(泉大津市・蓮正寺)で、第4期推進員養成講座の講師も務めていただいた。



先生は、台風の際、葬儀に向かいながら、「常楽我浄」と言う言葉を思い至り、

「我」を主張する我々に、仏はそれは逆さまだと教えるのが仏教だと。そしてお内佛等のお荘厳は私に向いてあって下さるのだと。そして親鸞聖人は、曇鸞大師の常実を通じて浄土の教えを授けられたことを伝えられたと話された。

法話を聴聞して

浪花 博 (法山寺)



先生は、9/4に西日本を襲った台風21号の中、葬儀場へ車を走らせながら、思

い通りに成らない災害を目のあたりにして「常楽我浄」と言う言葉が脳裏に浮かんだと話された。「無常」であるのに、そのままであってほしい。「苦」に満ちているのに「楽」であってほしい。「我」がないのに私は正しいというのは



「四顛倒」ひっくり返った思いだと。お内佛のお荘厳についても、お浄土を表わしており、仏様の教えがある所をお飾りするのです。お花は蕾が開いてやがて枯れていくのは諸行無常を表わし、お内佛を通じて気付かせていただくのです。

次に親鸞聖人は「正信偈」で、曇鸞大師のことを述べられています。「本師曇鸞梁天子 常向鸞処菩薩礼 三蔵流支授浄教 梵焼仙経帰楽邦」曇鸞大師は体が弱く、長生きしてお経を学ぶために不老長寿の術を記した「仙経」を持ちかえる途中、菩提流支三蔵法師に出会われ、「長生きしても迷いの世界を輪廻するだけ。浄土に往生して悟りを開き、無量の寿(いのち)を得る阿弥陀仏の法とは比較にならない」と叱られ、浄土の經典を授けられたので、仙経を棄てて、浄土の教えに帰依さ

2019年予告

全推進員のつどい

日時 2019年2月17日(日)

会場 難波別院

詳細は未定

第46回近畿連区同朋の会推進員研修会

日程 2019年5月30(木)

～31(金)

会場 ホテルセイリユウ(石切)
テーマ「真宗門徒の日常生活ーお内佛と向き合うー」

講師 池田勇諦先生(三重県西恩寺前住職。元同朋大学学長)

詳細は、未定



池田勇諦先生

れたとこのとです。

我々の世間の「常楽我浄」は、仏智を疑い私は正しい、他人はアカンと言っていますが、仏の教えによって真理に出会い、仏智によって自分が



間違っていたことに気付かされ、「アカンがイカン」に気づくのです。仙経(自分の知識)を梵焼(すべて棄てる)して「愚者(ただの人)になりて往生す」が大切だとしめられました。

(今回も、浪花さんの応援で発行出来ました。感謝です)